

平成28年12月15日（木）

特定有人国境離島地域における 地域社会維持にかかる対策について

具体事例

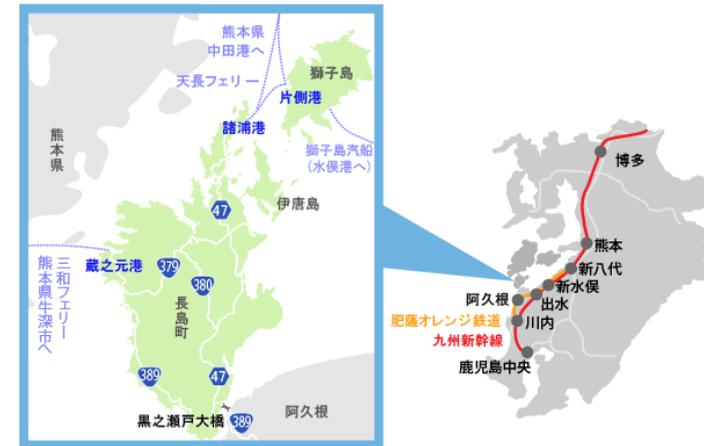
1. 鹿児島県長島町
2. 鹿児島県十島村

公益財団法人日本離島センター
専務理事 小島愛之助

1. 鹿児島県長島町

<概況>

- ・薩摩半島の西北部 鹿児島県最北端の町
- ・四方を東シナ海、八代海、長島海峡などに囲まれる
北部一帯は雲仙天草国立公園に指定
- ・長島・伊唐島・諸浦島（以上本土と架橋済）、獅子島
- ・基幹産業は農業と漁業
「赤土馬鈴薯」と生産額日本一の「養殖ブリ」が有名
- ・合計特殊出生率は2.0前後の高水準を維持
- ・人口（国勢調査） 昭和45年 15,929人→ 平成27年 10,436人（速報値）



<定住・交流促進施策>

- ・親世代の転出の抑制と転入の増加を図り、人口の安定化を目指す
- ・「ぶり奨学プログラム」研究と推進（富山県氷見市と覚書を締結）
- ・季刊誌『長島大陸食べる通信』の創刊
- ・地元事業者と外部人材のマッチング「はまちスタート」開始
- ・阪急交通社との観光振興に関する連携協定締結
- ・離島活性化交付金によるUIターン者用の住宅整備（獅子島）
- ・特産品販売所「獅子島屋」の開設（同）
- ・「子落とし塾」の開講（同）

<教育>

- ・ドワンゴ・カドカワ「N高等学校」と連携、「長島大陸Nセンター」の設立



＜主な事業＞



◆「ぶり奨学プログラム」

- ①金利優遇「ぶり奨学ローン」
- ②元金・利息相当額を補填する「ぶり奨学金制度」
- ③事業者やふるさと納税から基金に寄付する「ぶり奨学寄付制度」
- ④出身の生徒・学生や卒業生の「ぶり奨学交流事業」
- ⑤「ぶり就職起業支援事業」



◆季刊誌「長島大陸食べる通信」

- ・食材つきの刊行物（年4回発行）
- ・食材生産のドラマ（生産過程やつくり手の思いなど）、食べ方などを紹介
- ・「長島ブランド」の確立と食材を通じた販路拡大と交流人口増加
- ・スマートなデザイン・誌面づくりで後継者・新規参入者を確保



◆阪急交通社「長島大陸支店」

- ・阪急交通社との相互連携により町の新たな観光需要と交流人口を創出。経済振興・雇用拡大を図る
- ・主な連携内容
- ①島内旅行需要創出へ協力支援
- ②阪急交通社が長島町に職員を定期的に派遣 など



◆「子落とし塾」（獅子島）

- ・現役大学生が高校生に勉強を教え、島の住民が孫のように子どもたちを応援する集中自修合宿
- ・交流人口の増加、島を「第2の故郷」とする卒業生育成



◆N高校「長島大陸Nセンター」

- ・平成28年8月、ネット利用の通信制高校「N高校」の教育拠点「長島大陸Nセンター」開所
- ・ネット技術を用いた教育コンテンツを活用、町主導による教育環境の整備と地域創生を加速強化³